

【研究名】:外来化学療法におけるがん患者指導管理料3の臨床的アウトカムと医療経済効果の推算

【研究目的】

がん化学療法は分子標的薬の登場、支持療法薬の進歩、患者の意識変化、入院医療費の包括化などを背景に、外来化学療法が主流になっています。2014年の診療報酬改定によって、これらの外来治療の質を担保するために、がん患者指導管理料3が新設されました。当院では、2014年8月よりがん患者指導管理料3の体制を整え、薬剤師が患者指導を行っています。

しかしながら、薬剤師によるがん患者指導管理料3は各施設におけるマンパワーの問題や、運用方法など試行錯誤の状態です。そこで、外来化学療法におけるがん患者指導管理料3の臨床的アウトカムと医療経済効果の推算を行います。

【研究意義】

当院の薬剤師が、がん患者指導管理料3による患者さんへの介入を行うことが外来化学療法の質及び安全性に貢献できているか、また、その医療経済効果を評価することは他施設におけるマンパワーの確保、薬剤師によるがん患者指導管理料3の普及に繋がることが期待されます。

【調査の対象となる患者さん】

2014年8月～2015年8月の間に薬剤師ががん患者指導管理料3の算定を行った患者さん

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

年齢、性別、がんの治療内容、服用している薬、使用した注射薬、検査値、がん化学療法に伴う副作用に対して、薬学的介入を行った事例に対して、その発端、根拠、支持療法薬の処方提案などの介入内容、転帰

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関：愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者：教授 荒木 博陽

研究分担者：

准教授 田中 亮裕

主任 河添 仁

薬剤師 矢野安樹子

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者：准教授 田中 亮裕

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.chime-u.ac.jp

【研究成果】

副作用に対する支持療法の処方提案は56件あり、そのうち29件(51.8%)は薬学的介入前と比較して、副作用が軽減しました。がん患者指導管理料3の算定が外来化学療法の質および安全性の向上に貢献したことを示し、化学療法に伴う副作用を軽減することによる医療費の削減効果は11,360,000円であると推算されました。(第26回日本医療薬学会年会にて発表)